

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
知財戦略マネジメント論 Strategic Intellectual Property Management		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ( )		
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
技術戦略経営				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ビジネス実務総論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館2F (研究室1)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
知的財産とは、人が考え出した発明やアイデア、デザイン、音楽、小説など「かたちのない財産」のことであり、これらは「知的財産権」という権利として法的に保護されている。本授業は、この“知財”をキーワードに最新のビジネス・スキルの修得を目標とし、技術・制度・市場のグローバル化問題に対し、知財戦略をマネジメントの立場から捉え、①「国際競争力の強化」、②「国際市場展開の強化」、③「オープン・イノベーション下でのリーダーシップ」の3点から学習する。				
授業の目標				
①「知財の意味と歴史」の学習から“知財の本質とその歴史的変遷”を習得できるようにする。 ②「知財の保護(技術開発・工業デザイン・創作的表現・国際的保護)」の学習から“知財権の意味”を身につけるようにする。 ③「知財戦略」の学習から“知財戦略の事例”を習得できるようにする。 ④「知財の情報開示と証券化」の学習から“知財のビジネス化”を身につけるようにする。 ⑤「知財とグローバル戦略」の学習から“グローバル戦略の事例”を習得できるようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、“知財戦略マネジメント”に精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果(学習成果)				
①知財の歴史と知財の保護、②知財戦略と知財の証券化、③知財とグローバル戦略の修得を通して、身につけた知財戦略に関する知識と概念を活用して、グローバル化する知財問題に適切に対処することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等)/レポート課題説明と出題			
第2回目	知財の意味を考える①(創造戦略/権利化戦略/活用戦略/管理戦略/インフラ戦略)			
第3回目	知財の意味を考える②(知財活用事例:ヘルシア緑茶 versus コカ・コーラ、Appleとサムスン電子のスマホ訴訟合戦)			
第4回目	知財の歴史、(グループワークによるプレゼンとディスカッション①)			
第5回目	技術開発の保護:社内規定の整備→職務発明規定と営業秘密管理規定/レポート課題説明と出題			
第6回目	工業デザイン・営業標識の保護:商標権侵害←警告書への対応			

第7回目	創作的な表現の保護：著作権と特許権の違い	
第8回目	知財の国際的保護：属地主義を原則に条約により国際調和をはかる、(グループワークによるプレゼンとディスカッション②)	
第9回目	知財戦略：デファクトスタンダード ( de facto standard) ; 市場における競争や広く採用された「結果として事実上標準化した基準」←最強の参入障壁/レポート課題説明と出題	
第10回目	知財の情報開示：知財管理の一般的業務構成	
第11回目	知財の証券化：知財信託 管理型・資金調達型	
第12回目	知財人材の育成：知財スキル標準→世界初、知的財産パーソン育成のための“指標”、(グループワークによるプレゼンとディスカッション③)	
第13回目	知財立国とグローバル戦略	
第14回目	知財スキルと標準化①:グローバル戦略マネジメント	
第15回目	知財スキルと標準化②:グローバル戦略のための人材マネジメント	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	30%	Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	40%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験		
発表内容 (態度含む)	20%	Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価：S (傑出した内容)=90-100、A (平均を上回る内容)=80-89、B (平均的内容)=70-79、C (平均を下回る内容)=60-69、D (左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書		
長江庸泰作成の“デジタルテキスト[知財戦略マネジメント論 2016年度版]”を活用する。		
履修上の留意点・ルール		
本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。		